

令和7年度 卒業生アンケート調査結果報告書

2025年度実施

卒業生アンケート調査結果
(卒業2年目・5年目対象)

実 施 : 学生支援課
集計・分析: 情報IR室

本学卒業生アンケートの比較分析：
他大学調査との比較による特徴・強み・課題の検討
ー卒業生調査設計・回答傾向の比較分析レポートー

目 次

第1部 令和7年度 卒業生アンケート調査集計

1. 実施概要
2. アンケート質問項目
3. アンケート集計

第2部 令和7年度 卒業生アンケート調査結果報告書

1. 調査概要
2. 基本情報集計
3. 勤務先で求められる能力分析(1)
4. 勤務先で求められる能力分析(2)
5. 大学教育への評価と提言
6. まとめ・今後の課題

第3部 本学卒業生アンケートの比較分析： 他大学調査との比較による特徴・強み・課題の検討

1. 設問設計の特徴
2. 設問設計の優位点と不足点
3. 回答結果の傾向
4. 他大学と比べた本学の強み・弱み
5. 総合的評価と改善の方向性

「令和7年度卒業生アンケート」実施概要

教育改革推進会議
情報 IR 会議
情報 IR 室

1 目的

兵庫大学・兵庫大学短期大学部における教育の成果及び質、そして卒業後の社会における実践状況を確認、検証し、今後の教育改善の取り組みに向けた基礎資料を得ることを目的として実施する。

2 期待される効果

本学教学マネジメント改革は緒に就いたばかりである。今後、その取り組みを実効あるものとするためにも適宜検証しながら改革を進めなければならない。そこにはその時々エビデンスデータを基にした定量分析とともに、入学時調査、在学生調査、卒業時調査、職場調査等の定性分析が欠かせない。大学教育は単に卒業させて終わりではない。卒業後の社会における実践状況を確認することにより、今後の教育改善の示唆が得られるものとする。

3 実施概要

対 象:【卒業5年目】令和2年度(2021年)卒業

2021年度卒業生(2017年度大学入学生、2019年度保育科第一部入学生、2018年度保育科第三部入学生)(431名)

【卒業2年目】令和5年度(2024年)卒業

2024年度卒業生(2020年度大学入学生、2022年度保育科第一部入学生、2017年度保育科第三部入学生)(488名)

実施期間:2025年8月12日(火)～9月19日(金)

設 問 数:15項目

調査内容:基本属性

本学で受けた教育について

卒業後のことについて

本学での学びと本学に対する思いについて

本学の今後について

意見自由記述

調査方法:QRコードを付したはがきを送付

Googleフォームにより回答

所 管:学生支援課

情報 IR 室

4 公表及び活用

(1) 卒業生アンケート集計分析報告書作成

(2) 本学ホームページにて公表

(3) 教学マネジメント改革に活用

5 実施日程

～8/5 設問項目の決定

～8/11 調査票作成

8/12 発送

～9/19 卒業生アンケート実施

～9/30 集計・分析、報告作成

10月 公表

アンケート質問内容

※該当する項目の丸数字番号を選んでください。

(1) 最終年度に所属していた学科

- ① 現代ビジネス学科
- ② 栄養マネジメント学科
- ③ 健康システム学科
- ④ 看護学科
- ⑤ 社会福祉学科
- ⑥ こども福祉学科
- ⑦ 保育科第一部
- ⑧ 保育科第三部

(2) 大学教育の中で身に付けることができたと思う知識・能力は何ですか。該当するものを3つまで選んでください。

- ① 一般的な教養
- ② 専門的知識
- ③ 英語等の語学力
- ④ 主体的に動く力
- ⑤ 他者に働きかける力
- ⑥ 最後までやりとげる力
- ⑦ 課題を発見する力
- ⑧ 課題を解決する力
- ⑨ 他者を理解する力
- ⑩ パソコンを使う力
- ⑪ 必要な情報を得る力
- ⑫ プレゼンテーション能力
- ⑬ ディベート能力
- ⑭ リーダーシップ
- ⑮ 資格の取得
- ⑯ その他

()
()

(3) あなたの職業やキャリアについてお聞かせください。

- ① 正社員・正規職員
- ② 契約社員・契約職員
- ③ 派遣社員・派遣職員
- ④ パート・アルバイト
- ⑤ 専業主婦・専業主夫
- ⑥ 無職
- ⑦ その他

(4) 卒業後、希望通りの進路に進むことができましたか。

- ① 希望通りのところへ進むことができた
- ② おおむね希望通りのところへ進むことができた
- ③ 希望通りのところへ進むことができなかった

(5) 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけ選んでください。

- ① 大学での専門分野との関連
- ② 業種
- ③ 地域条件（勤務地・転勤の有無など）
- ④ 規模
- ⑤ 知名度やイメージ
- ⑥ 経営方針
- ⑦ 安定性
- ⑧ 給与
- ⑨ OBやOGの存在
- ⑩ 勤務時間・休暇・福利厚生など
- ⑪ その他

(6) 現在、大学で修得した専門知識または資格を生かす職に就いていますか。

- ① 卒業後ずっと生かす職に就いている。
- ② 生かす職には就いていなかった（あるいは就いていないときもあった）が現在は就いている。
- ③ 過去には生かす職についていたが、現在は異なる職についている（主婦、主夫を含む）。
- ④ 卒業以来一度も生かす職には就いていない。
- ⑤ 就職したことがない。

(7) あなたの勤務先において、下記の能力について社員（職員）等にどの程度求められていると思いますか。

（とても求められる：4、ある程度求められる：3、あまり求められない：2、求められない：1）

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| ① 表現力・コミュニケーション能力 | (4, 3, 2, 1) |
| ② 情報リテラシー・数理的スキル | (4, 3, 2, 1) |
| ③ 幅広い知識や教養 | (4, 3, 2, 1) |
| ④ 専門分野に関する基本的な知識・理解 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑤ 専門分野に関する知識・理解を応用する力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑥ 目標を設定し達成しようとする力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑦ 現状を分析し目的や課題を明らかにする力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑧ 課題を解決するためのプロセスを理解し自ら取り組む力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑨ 社会のルール・マナーについて理解する力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑩ 社会の一員として社会貢献に積極的に関与する力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑪ 地域の文化・経済の特徴や強みを理解する力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑫ 多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑬ 特定の外国語を用いて相手と意思疎通できる力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑭ 自ら考え主体的に学ぶ力 | (4, 3, 2, 1) |
| ⑮ 学ぶことの意義を理解し学び続けようとする力 | (4, 3, 2, 1) |

(8) 他機関卒業生と接して本学では足りないと感じた部分について。該当するものを3つまで選んでください。

- ① 先輩や後輩、同級生とのつながり
- ② 基礎分野教育に関する知識と技術
- ③ 専門分野教育に関する知識と技術
- ④ コミュニケーション能力
- ⑤ 協調性や発言力
- ⑥ 責任感
- ⑦ 職業観、就業意識
- ⑧ チャレンジ精神、創造性
- ⑨ マナー・倫理観

(9) 大学時代を振り返り、身に付けておくべきだったと思う能力は何ですか。該当するものを3つまで選んでください。

- ① 論理的思考力
- ② リーダーシップ能力
- ③ 社会人としてのマナー・常識
- ④ 責任感
- ⑤ やり遂げる力
- ⑥ 新しいことに挑戦する力
- ⑦ 他人に対する配慮・心配りができる力
- ⑧ その他

(10) 本学での学びと本学に対する思いについて

（とてもあてはまる：4、ある程度あてはまる：3、あまりあてはまらない：2、あてはまらない：1）

- | | |
|--|--------------|
| ① 本学で学んだことについて満足していますか？ | (4, 3, 2, 1) |
| ② 本学在学中の学びと経験を通して成長したと思いますか？ | (4, 3, 2, 1) |
| ③ 本学を卒業したことに誇りを感じますか？ | (4, 3, 2, 1) |
| ④ 身近に、私立大学への進学を希望する者がいる場合、本学を勧めたいと思いますか？ | (4, 3, 2, 1) |
| ⑤ 本学での学修や経験は、その後の社会生活やキャリア形成に役立っていますか？ | (4, 3, 2, 1) |
| ⑥ 本学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活や職業生活に役立っていますか？ | (4, 3, 2, 1) |

(11) 本学は社会からどのように評価されていると思いますか。あなたのイメージに近いものを選んで、該当するものを3つまで選んでください。

- ① 社会的にも高く評価されている
- ② 教育研究水準は相対的に高い
- ③ 教育研究を通して社会に貢献している
- ④ 国際交流事業は活発である
- ⑤ 環境への取り組みを通して社会に貢献している
- ⑥ 卒業生は社会的に活躍している

(12) 今後、本学が力を入れるべきものは何だと思いますか。社会人から見て、必要と思われるものを3つまで選んでください。

- ① 専門分野の教育
- ② 一般教養を高める教育
- ③ コミュニケーション能力を高める教育
- ④ プレゼンテーション・自己表現能力を高める教育
- ⑤ キャリア教育・インターンシップ制度などの強化
- ⑥ 国家試験対策
- ⑦ 大学の知名度を上昇させる取り組み
- ⑧ クラブ・サークル活動の強化
- ⑨ 大学祭などの大学行事・イベントの強化
- ⑩ ボランティア活動の強化
- ⑪ 学生食堂・ラウンジ（談話スペース）等 厚生施設の充実
- ⑫ 就職先の開拓、就職率をさらに上昇させる取り組み
- ⑬ 学内奨学金等の金銭的フォローの充実
- ⑭ 教職員による学生生活へのフォローの充実
- ⑮ 国際交流

(13) 今後なんらかの形で再び本学で学ぶとしたら、どのような機会にしたいと思いますか。ひとつだけ選んでください。

- ① 資格など修得のための特定の技術的・専門的知識を学ぶ機会
- ② 技術的知識ではない広い知識を、職業人としての実力を磨くために学ぶ機会
- ③ 必ずしも仕事・職業とは関係のないことを広く教養として学ぶ機会
- ④ その他のことで学ぶ機会
- ⑤ 学ぶ機会ということでは特に希望することはない
- ⑥ その他

(14) 最後に、大学に対し望むことや後輩へのメッセージ・ご意見等がございましたら自由に記入してください。ご希望があれば、教職員等にメッセージをお渡しさせていただきます（在籍していない教員には渡せない場合があります）。

配布数:919人

【卒業5年目】431人

現代ビジネス学科:32人
栄養マネジメント学科:35人
健康システム学科:29人
看護学科:99人(内、未着1人)
社会福祉学科:22人
こども福祉学科:52人(内、未着1人)
保育科第一部:74人(内、未着1人)
保育科第三部:88人

【卒業2年目】488人

現代ビジネス学科:113人(内、未着1人)
栄養マネジメント学科:67人
健康システム学科:41人(内、未着1人)
看護学科:89人(内、未着2人)
社会福祉学科:35人
こども福祉学科:37人(内、未着1人)
保育科第一部:47人(内、未着1人)
保育科第三部:59人

=== 基本情報の集計 ===

1. 卒業年度別回答者数:

【卒業2年目】令和5年度(2024年)卒業: 35人 (52.2%) /488人 (回収率7.2%)
 【卒業5年目】令和2年度(2021年)卒業: 32人 (47.8%) /431人 (回収率7.4%)

2. 所属学科別回答者数:

⑦ 保育科第一部: 16人 (23.9%)
 ⑧ 保育科第三部: 12人 (17.9%)
 ① 現代ビジネス学科: 11人 (16.4%)
 ② 栄養マネジメント学科: 8人 (11.9%)
 ④ 看護学科: 8人 (11.9%)
 ⑥ こども福祉学科: 5人 (7.5%)
 ⑤ 社会福祉学科: 4人 (6.0%)
 ③ 健康システム学科: 3人 (4.5%)

3. 職業・キャリアの分布:

① 正社員・正規職員: 56人 (83.6%)
 ④ パート・アルバイト: 4人 (6.0%)
 ② 契約社員・契約職員: 3人 (4.5%)
 ⑥ 無職: 3人 (4.5%)
 臨時教諭: 1人 (1.5%)

4. 進路満足度の分布:

① 希望通りのところへ進むことができた: 42人 (62.7%)
 ② おおむね希望通りのところへ進むことができた: 18人 (26.9%)
 ③ 希望通りのところへ進むことができなかった: 7人 (10.4%)

5. 専門知識活用状況の分布:

① 卒業後ずっと生かす職に就いている。: 51人 (76.1%)
 ④ 卒業以来一度も生かす職には就いていない。: 9人 (13.4%)
 ③ 過去には生かす職についていたが、現在は異なる職についている(主婦、主夫を含む)。: 4人 (6.0%)
 ② 生かす職には就いていなかった(あるいは就いていないときもあった)が現在は就いている。: 2人 (3.0%)
 ⑤ 就職したことがない。: 1人 (1.5%)

=== 就職関連の分析 ===

1. 就職先決定で重視したこと (Top10):

1位: ① 大学での専門分野との関連 17人 (25.4%)
 2位: ③ 地域条件(勤務地・転勤の有無など) 11人 (16.4%)
 3位: ⑩ 勤務時間・休暇・福利厚生など 10人 (14.9%)
 4位: ⑦ 安定性 9人 (13.4%)
 5位: ⑧ 給与 8人 (11.9%)
 6位: ② 業種 4人 (6.0%)
 7位: ⑥ 経営方針 3人 (4.5%)
 8位: 自宅からの距離 1人 (1.5%)
 9位: 人間関係・家からの近さ 1人 (1.5%)
 10位: 人間関係・働きやすさ 1人 (1.5%)

2. 専門知識活用状況の詳細:

回答数 割合(%)

(6) 現在、大学で修得した専門知識または資格を生かす職に就いていますか。

① 卒業後ずっと生かす職に就いている。 51人(76.1%)
 ④ 卒業以来一度も生かす職には就いていない。 9人(13.4%)
 ③ 過去には生かす職についていたが、現在は異なる職についている(主婦、主夫を含む)。 4人(6.0%)
 ② 生かす職には就いていなかった(あるいは就いていないときもあった)が現在は就いている。 2人(3.0%)
 ⑤ 就職したことがない。 1人(1.5%)

3. 希望進路達成率:

希望通り + おおむね希望通り: 100.0%
 希望通りではなかった: 10.4%

4. 正社員率: 83.6%

5. 専門知識活用率: 76.1%

=== 勤務先で求められる能力15項目の詳細分析 ===

能力項目一覧:

1. ① 表現力・コミュニケーション能力
2. ② 情報リテラシー・数理的スキル
3. ③ 幅広い知識や教養
4. ④ 専門分野に関する基本的な知識・理解
5. ⑤ 専門分野に関する知識・理解を応用する力
6. ⑥ 目標を設定し達成しようとする力
7. ⑦ 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
8. ⑧ 課題を解決するためのプロセスを理解し自ら取り組む力
9. ⑨ 社会のルール・マナーについて理解する力
10. ⑩ 社会の一員として社会貢献に積極的に関与する力
11. ⑪ 地域の文化・経済の特徴や強みを理解する力
12. ⑫ 多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力
13. ⑬ 特定の外国語を用いて相手と意思疎通できる力
14. ⑭ 自ら考え主体的に学ぶ力
15. ⑮ 学ぶことの意義を理解し学び続けようとする力

能力項目別平均スコア（ランキング）:

1位: ① 表現力・コミュニケーション能力	平均: 3.64
とても求められる(4): 49人 (73.1%)	
ある程度求められる(3): 14人 (20.9%)	
あまり求められない(2): 2人 (3.0%)	
求められない(1): 2人 (3.0%)	
2位: ⑨ 社会のルール・マナーについて理解する力	平均: 3.58
とても求められる(4): 45人 (67.2%)	
ある程度求められる(3): 18人 (26.9%)	
あまり求められない(2): 2人 (3.0%)	
求められない(1): 2人 (3.0%)	
3位: ⑭ 自ら考え主体的に学ぶ力	平均: 3.51
とても求められる(4): 40人 (59.7%)	
ある程度求められる(3): 23人 (34.3%)	
あまり求められない(2): 2人 (3.0%)	
求められない(1): 2人 (3.0%)	
4位: ④ 専門分野に関する基本的な知識・理解	平均: 3.48
とても求められる(4): 39人 (58.2%)	
ある程度求められる(3): 23人 (34.3%)	
あまり求められない(2): 3人 (4.5%)	
求められない(1): 2人 (3.0%)	
5位: ⑥ 目標を設定し達成しようとする力	平均: 3.43
とても求められる(4): 34人 (50.7%)	
ある程度求められる(3): 30人 (44.8%)	
あまり求められない(2): 1人 (1.5%)	
求められない(1): 2人 (3.0%)	
6位: ⑤ 専門分野に関する知識・理解を応用する力	平均: 3.42
とても求められる(4): 38人 (56.7%)	
ある程度求められる(3): 22人 (32.8%)	
あまり求められない(2): 4人 (6.0%)	
求められない(1): 3人 (4.5%)	
7位: ⑮ 学ぶことの意義を理解し学び続けようとする力	平均: 3.42
とても求められる(4): 37人 (55.2%)	
ある程度求められる(3): 24人 (35.8%)	
あまり求められない(2): 3人 (4.5%)	
求められない(1): 3人 (4.5%)	

- 8位: ⑦ 現状を分析し目的や課題を明らかにする力 平均: 3.40
 とても求められる(4): 35人 (52.2%)
 ある程度求められる(3): 26人 (38.8%)
 あまり求められない(2): 4人 (6.0%)
 求められない(1): 2人 (3.0%)
- 9位: ⑩ 社会の一員として社会貢献に積極的に関与する力 平均: 3.39
 とても求められる(4): 37人 (55.2%)
 ある程度求められる(3): 21人 (31.3%)
 あまり求められない(2): 7人 (10.4%)
 求められない(1): 2人 (3.0%)
- 10位: ⑧ 課題を解決するためのプロセスを理解し自ら取り組む力 平均: 3.33
 とても求められる(4): 31人 (46.3%)
 ある程度求められる(3): 30人 (44.8%)
 あまり求められない(2): 3人 (4.5%)
 求められない(1): 3人 (4.5%)
- 11位: ③ 幅広い知識や教養 平均: 3.24
 とても求められる(4): 27人 (40.3%)
 ある程度求められる(3): 31人 (46.3%)
 あまり求められない(2): 7人 (10.4%)
 求められない(1): 2人 (3.0%)
- 12位: ⑫ 多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力 平均: 3.13
 とても求められる(4): 26人 (38.8%)
 ある程度求められる(3): 28人 (41.8%)
 あまり求められない(2): 9人 (13.4%)
 求められない(1): 4人 (6.0%)
- 13位: ② 情報リテラシー・数理的スキル 平均: 3.03
 とても求められる(4): 16人 (23.9%)
 ある程度求められる(3): 39人 (58.2%)
 あまり求められない(2): 10人 (14.9%)
 求められない(1): 2人 (3.0%)
- 14位: ⑪ 地域の文化・経済の特徴や強みを理解する力 平均: 2.99
 とても求められる(4): 21人 (31.3%)
 ある程度求められる(3): 28人 (41.8%)
 あまり求められない(2): 14人 (20.9%)
 求められない(1): 4人 (6.0%)
- 15位: ⑬ 特定の外国語を用いて相手と意思疎通できる力 平均: 2.24
 とても求められる(4): 9人 (13.4%)
 ある程度求められる(3): 18人 (26.9%)
 あまり求められない(2): 20人 (29.9%)
 求められない(1): 20人 (29.9%)

順位	能力項目	平均スコア	とても求められる(4)	ある程度求められる(3)	あまり求められない(2)	求められない(1)
1	① 表現力・コミュニケーション能力	3.64	49	14	2	2
2	⑨ 社会のルール・マナーについて理解する力	3.58	45	18	2	2
3	⑭ 自ら考え主体的に学ぶ力	3.51	40	23	2	2
4	④ 専門分野に関する基本的な知識・理解	3.48	39	23	3	2
5	⑥ 目標を設定し達成しようとする力	3.43	34	30	1	2
6	⑤ 専門分野に関する知識・理解を応用する力	3.42	38	22	4	3
7	⑮ 学ぶことの意義を理解し学び続けようとする力	3.42	37	24	3	3
8	⑦ 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	3.4	35	26	4	2
9	⑩ 社会の一員として社会貢献に積極的に関与する力	3.39	37	21	7	2
10	⑧ 課題を解決するためのプロセスを理解し自ら取り組む力	3.33	31	30	3	3
11	③ 幅広い知識や教養	3.24	27	31	7	2
12	⑫ 多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力	3.13	26	28	9	4
13	② 情報リテラシー・数理的スキル	3.03	16	39	10	2
14	⑪ 地域の文化・経済の特徴や強みを理解する力	2.99	21	28	14	4
15	⑬ 特定の外国語を用いて相手と意思疎通できる力	2.24	9	18	20	20

=== 大学教育で身についた知識・能力の分析 ===

順位	知識・能力	回答数	割合(%)
1	② 専門的知識	49	73.1
2	⑮ 資格の取得	32	47.8
3	① 一般的な教養	21	31.3
4	⑥ 最後までやりとげる力	16	23.9
5	④ 主体的に動く力	13	19.4
6	⑩ パソコンを使う力	10	14.9
7	⑫ プレゼンテーション能力	8	11.9
8	⑨ 他者を理解する力	8	11.9
9	⑧ 課題を解決する力	6	9
10	⑦ 課題を発見する力	5	7.5
11	⑪ 必要な情報を得る力	4	6
12	⑤ 他者に働きかける力	4	6
13	⑭ リーダーシップ	2	3
14	特になし	1	1.5
15	⑬ ディベート能力	1	1.5

=== 身につけておくべきだった能力の分析 ===

順位	必要だった能力	回答数	割合(%)
1	③ 社会人としてのマナー・常識	31	46.3
2	⑦ 他人に対する配慮・心配りができる力	23	34.3
3	② リーダーシップ能力	20	29.9
4	⑥ 新しいことに挑戦する力	20	29.9
5	⑤ やり遂げる力	19	28.4
6	④ 責任感	18	26.9
7	① 論理的思考力	16	23.9
8	特になし	2	3
9	なし	1	1.5

=== 大学への満足度6項目の集計 ===

順位	満足度項目	平均スコア	とてもあてはまる(4)	ある程度あてはまる(3)	あまりあてはまらない(2)	あてはまらない(1)
1	① 本学で学んだことについて満足していますか？	3.43	34	29	3	1
2	② 本学在学中の学びと経験を通して成長したと思いますか？	3.4	33	30	2	2
3	⑤ 本学での学修や経験は、その後の社会生活やキャリア形成に役立っていますか？	3.3	31	29	3	4
4	③ 本学を卒業したことに誇りを感じますか？	3.1	24	30	9	4
5	⑥ 本学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活や職業生活に役立っていますか？	3.09	26	27	8	6
6	④ 身近に、私立大学への進学を希望する者がいる場合、本学を勧めたいと思いますか？	3.01	19	35	8	5

=== 大学への評価と提言の分析 ===

1. 他機関卒業生と接して本学では足りないと感じた部分:

1位: ① 先輩や後輩、同級生とのつながり	35回 (52.2%)
2位: ⑧ チャレンジ精神、創造性	19回 (28.4%)
3位: ⑤ 協調性や発言力	17回 (25.4%)
4位: ⑥ 責任感	15回 (22.4%)
5位: ⑨ マナー・倫理観	13回 (19.4%)
6位: ④ コミュニケーション能力	13回 (19.4%)
7位: ⑦ 職業観、就業意識	10回 (14.9%)
8位: ③ 専門分野教育に関する知識と技術	10回 (14.9%)
9位: ② 基礎分野教育に関する知識と技術	6回 (9.0%)

2. 今後本学が力を入れるべきもの:

1位: ① 専門分野の教育	24回 (35.8%)
2位: ③ コミュニケーション能力を高める教育	20回 (29.9%)
3位: ② 一般教養を高める教育	17回 (25.4%)
4位: ⑫ 就職先の開拓、就職率をさらに上昇させる取り組み	13回 (19.4%)
5位: ④ プレゼンテーション・自己表現能力を高める教育	13回 (19.4%)
6位: ⑦ 大学の知名度を上昇させる取り組み	11回 (16.4%)
7位: ⑤ キャリア教育・インターンシップ制度などの強化	10回 (14.9%)
8位: ⑬ 学内奨学金等の金銭的フォローの充実	9回 (13.4%)
9位: ⑥ 国家試験対策	8回 (11.9%)
10位: ⑪ 学生食堂・ラウンジ(談話スペース)等 厚生施設の充実	7回 (10.4%)

3. 本学の社会評価イメージ:

1位: ③ 教育研究を通して社会に貢献している	33回 (49.3%)
2位: ⑥ 卒業生は社会的に活躍している	33回 (49.3%)
3位: ⑤ 環境への取り組みを通して社会に貢献している	14回 (20.9%)
4位: ① 社会的にも高く評価されている	12回 (17.9%)
5位: ④ 国際交流事業は活発である	12回 (17.9%)
6位: ② 教育研究水準は相対的に高い	5回 (7.5%)

4. 再び学ぶ機会の希望:

① 資格など修得のための特定の技術的・専門的知識を学ぶ機会:	30人 (44.8%)
⑤ 学ぶ機会ということでは特に希望することはない:	17人 (25.4%)
③ 必ずしも仕事・職業とは関係のないことを広く教養として学ぶ機会:	11人 (16.4%)
② 技術的知識ではない広い知識を、職業人としての実力を磨くために学ぶ機会:	8人 (11.9%)
④ その他のことで学ぶ機会:	1人 (1.5%)

足りないと感じた部分	① 先輩や後輩、同級生とのつながり(35回) ⑧ チャレンジ精神、創造性(19回) ⑤ 協調性や発言力(17回)
今後力を入れるべきもの	① 専門分野の教育(24回) ③ コミュニケーション能力を高める教育(20回) ② 一般教養を高める教育(17回)
社会評価イメージ	③ 教育研究を通して社会に貢献している(33回) ⑥ 卒業生は社会的に活躍している(33回) ⑤ 環境への取り組みを通して社会に貢献している(14回)

第2部

令和7年度 卒業生アンケート調査結果報告書

調査概要

対象者：卒業2年目・5年目の卒業生（2021年・2024年卒業）
配布総数：919人（卒業2年目：488人、卒業5年目：431人）
実施期間：2025年8月12日(火)～9月19日(金)
調査方法：QRコードを付したはがきを送付
グーグルフォームにより回答

1. 配布数と回収状況

区分	配布数	回答者数	回収率
卒業2年目（2024年卒業）	488人	35人	7.2%
卒業5年目（2021年卒業）	431人	32人	7.4%
合計	919人	67人	7.3%

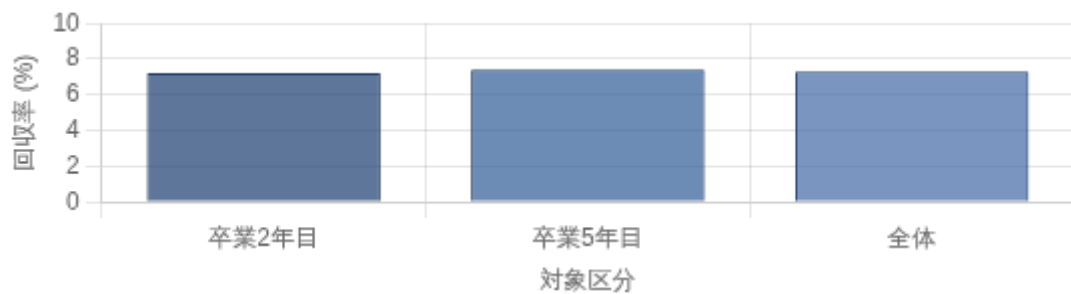
2. 学科別配布数

学科	2年目	5年目	計
現代ビジネス	113人	32人	145人
栄養マネジメント	67人	35人	102人
健康システム	41人	29人	70人
看護	89人	99人	188人

学科	2年目	5年目	計
社会福祉	35人	22人	57人
こども福祉	37人	52人	89人
保育科第一部	47人	74人	121人
保育科第三部	59人	88人	147人

※一部学科で未着（宛先不明等）あり（詳細省略）

3. 回収率の分布



※全体の回収率は7.3%（67人/919人）と低調だが、回答内容は充実

基本情報集計

卒業生アンケートの基本情報として、回答者は卒業2年目35人（52.2%）、5年目32人（47.8%）の計67人。回収率は全体で7.3%。

主な所属学科は保育科第一部（23.9%）、保育科第三部（17.9%）、現代ビジネス学科（16.4%）。

回収率

7.3%

正社員率

83.6%

希望進路達成率

89.6%

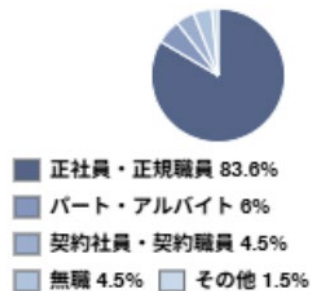
専門知識活用率

76.1%

1. 職業・キャリア状況

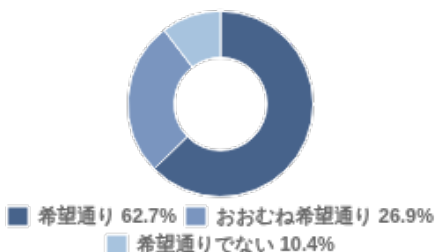
職業・キャリア区分	人数	割合
正社員・正規職員	56人	83.6%
パート・アルバイト	4人	6.0%
契約社員・契約職員	3人	4.5%
無職	3人	4.5%
臨時教諭	1人	1.5%

職業・キャリア分布

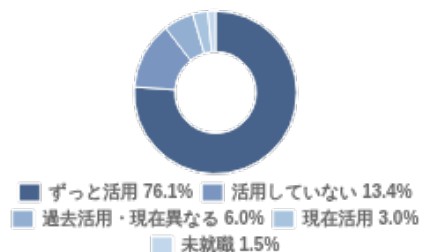


2. 進路満足度と専門知識活用状況

進路満足度



専門知識活用状況



3. 学科別回答者分布

学科	人数	割合
保育科第一部	16人	23.9%
保育科第三部	12人	17.9%
現代ビジネス学科	11人	16.4%
栄養マネジメント学科	8人	11.9%
看護学科	8人	11.9%
こども福祉学科	5人	7.5%
社会福祉学科	4人	6.0%
健康システム学科	3人	4.5%

4. 就職先決定要因（Top5）

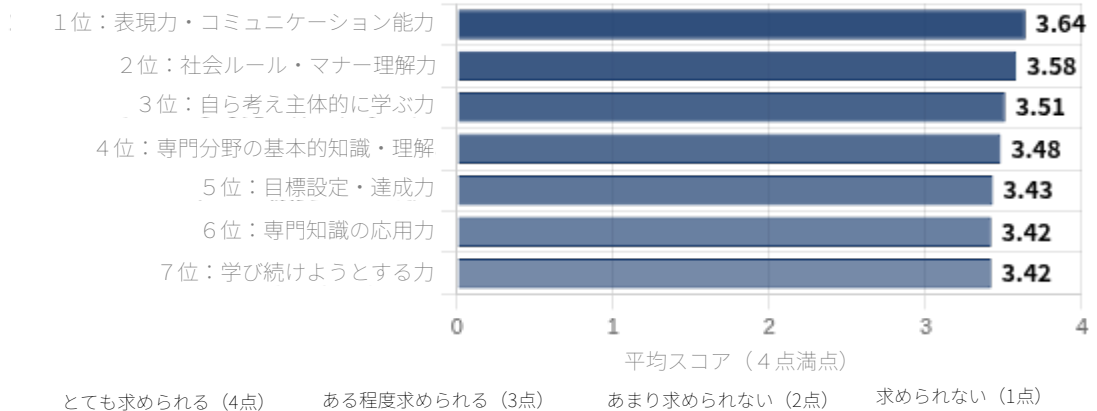
順位	就職先決定要因	人数	割合
1位	大学での専門分野との関連	17人	25.4%
2位	地域条件（勤務地・転勤の有無など）	11人	16.4%
3位	勤務時間・休暇・福利厚生など	10人	14.9%
4位	安定性	9人	13.4%
5位	給与	8人	11.9%

※その他の要因：業種（6.0%）、経営方針（4.5%）、自宅からの距離（1.5%）、人間関係（1.5%）など

勤務先で求められる能力分析(1)

勤務先で求められる能力を15項目について4段階評価した結果、表現力・コミュニケーション能力と社会のルール・マナーについて理解する力が特に高く評価された。調査回答者67名の評価（4点満点）に基づく分析。

1. 求められる能力ランキング（上位7項目）



2. 上位7項目の回答分布詳細

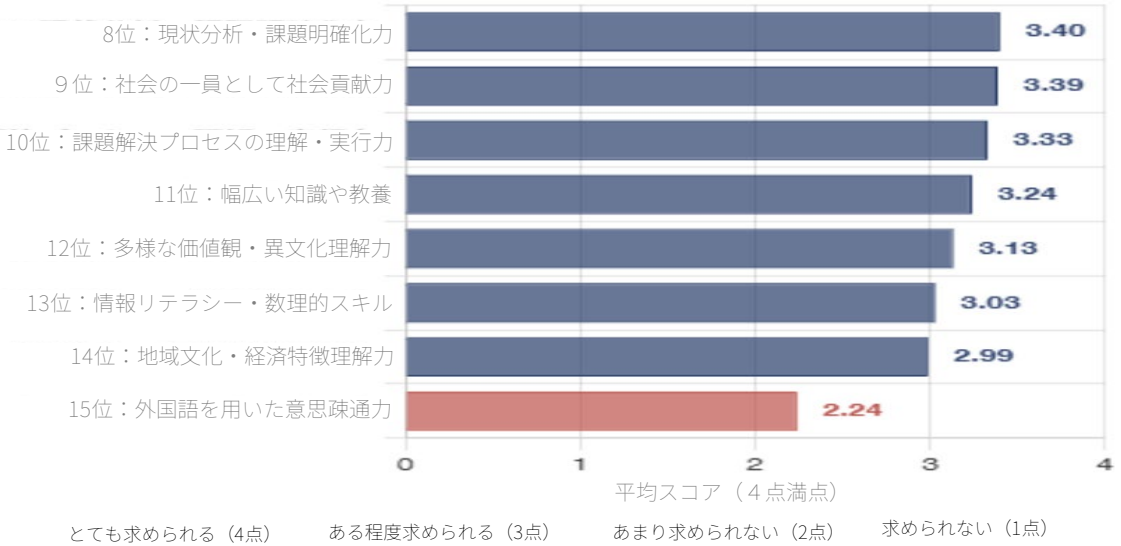
順位	能力項目	平均	とても求められる	ある程度求められる	あまり求められない	求められない
1位	表現力・コミュニケーション能力	3.64	73.1% (49人)	20.9% (14人)	3.0% (2人)	3.0% (2人)
2位	社会のルール・マナーについて理解する力	3.58	67.2% (45人)	26.9% (18人)	3.0% (2人)	3.0% (2人)
3位	自ら考え主体的に学ぶ力	3.51	59.7% (40人)	34.3% (23人)	3.0% (2人)	3.0% (2人)
4位	専門分野に関する基本的な知識・理解	3.48	58.2% (39人)	34.3% (23人)	4.5% (3人)	3.0% (2人)
5位	目標を設定し達成しようとする力	3.43	50.7% (34人)	44.8% (30人)	1.5% (1人)	3.0% (2人)
6位	専門分野に関する知識・理解を応用する力	3.42	56.7% (38人)	32.8% (22人)	6.0% (4人)	4.5% (3人)
7位	学ぶことの意義を理解し学び続けようとする力	3.42	55.2% (37人)	35.8% (24人)	4.5% (3人)	4.5% (3人)

分析ポイント:

対人能力（コミュニケーション力、社会ルール理解）が最も重視されている
主体的学習力と専門知識も高く評価されているが、応用力はやや低い
すべての上位項目で「とても求められる」「ある程度求められる」の合計が90%以上
学科を問わず、共通して求められる能力に大きな傾向が見られる

勤務先で求められる能力分析(2)

1. 求められる能力ランキング（8位～15位）詳細



2. 回答分布詳細

順位	能力項目	平均点	とても/ある程度 求められる	あまり/求められない
8位	⑦ 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	3.40	とても: 35人(52.2%) ある程度: 26人 (38.8%)	あまり: 4人(6.0%) 求められない: 2人 (3.0%)
9位	⑩ 社会の一員として社会貢献に関与する力	3.39	とても: 37人(55.2%) ある程度: 21人 (31.3%)	あまり: 7人(10.4%) 求められない: 2人 (3.0%)
10位	⑧ 課題解決のプロセスを理解し取り組む力	3.33	とても: 31人(46.3%) ある程度: 30人 (44.8%)	あまり: 3人(4.5%) 求められない: 3人 (4.5%)
11位	③ 幅広い知識や教養	3.24	とても: 27人(40.3%) ある程度: 31人 (46.3%)	あまり: 7人(10.4%) 求められない: 2人 (3.0%)
12位	⑫ 多様な価値観・異文化を理解する力	3.13	とても: 26人(38.8%) ある程度: 28人 (41.8%)	あまり: 9人(13.4%) 求められない: 4人 (6.0%)
13位	② 情報リテラシー・数理的スキル	3.03	とても: 16人(23.9%) ある程度: 39人 (58.2%)	あまり: 10人(14.9%) 求められない: 2人 (3.0%)
14位	⑪ 地域の文化・経済の特徴を理解する力	2.99	とても: 21人(31.3%) ある程度: 28人 (41.8%)	あまり: 14人(20.9%) 求められない: 4人 (6.0%)
15位	⑬ 外国語を用いて意思疎通できる力	2.24	とても: 9人(13.4%) ある程度: 18人 (26.9%)	あまり: 20人(29.9%) 求められない: 20人 (29.9%)

3. 8-15位の能力項目分析

- ・8位～12位は平均スコア3.13～3.40と依然として高く、職場で重要視される能力群
- ・「現状分析・課題明確化力」「社会貢献力」は合わせて90%以上が必要と回答
- ・「多様性理解」（12位）は昨今の社会情勢を反映し、80.6%が必要と回答
- ・13位～14位は平均3.0前後で「ある程度求められる」層が最も多い基礎的スキル
- ・「外国語力」は唯一の低評価項目で、59.8%が「あまり/求められない」と回答

分析要点

- ・8位～14位の項目は平均スコア2.99～3.40と比較的高く、多くの能力が職場で幅広く求められている
- ・「情報リテラシー」は「ある程度求められる」が58.2%と最も多く、基礎スキルとして期待されている
- ・「地域理解力」は業種によって求められる度合いに差があり、福祉・教育系で重視される傾向
- ・「外国語力」のみ平均2.24と低く、勤務先の国際化の程度によって評価が二極化している

カリキュラムへの示唆

中位能力（8～12位）：専門科目と連携した課題解決演習、PBLなどで実践的に養成

下位能力（13～14位）：全学共通の基礎教育として、情報リテラシーや地域理解を提供

最下位能力（15位）：選択科目として外国語を提供し、希望学生の能力を伸ばす機会を確保

4. 分析まとめ

高評価の能力項目の特徴

「現状分析・課題明確化力」と「社会貢献力」は平均3.4前後で上位

実務的な課題解決力や協働力に関わる項目が高評価

基礎的な社会人スキルが重視されている

低評価の能力項目の特徴

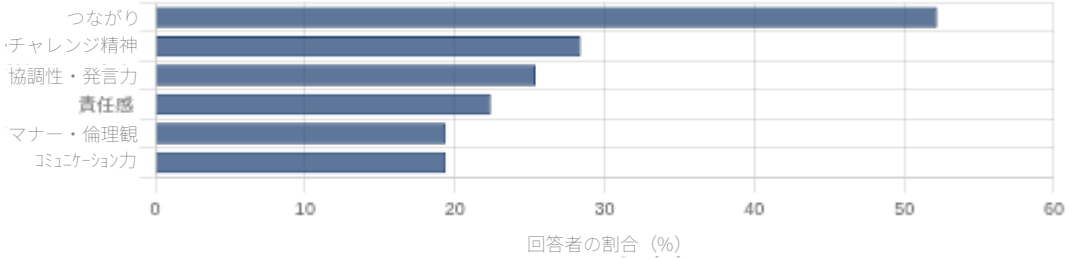
「外国語コミュニケーション力」のみ平均2.24と突出して低い

「求められない」「あまり求められない」が約60%

回答者の職場環境では外国語使用頻度が低い傾向

大学教育への評価と提言

1. 他機関卒業生と接して本学では足りないと感じた部分



2. 今後本学が力を入れるべき事項

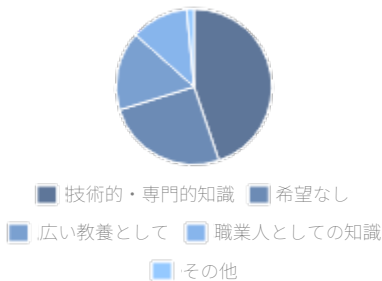
1位	専門分野の教育	35.8%
2位	コミュニケーション能力を高める教育	29.9%
3位	一般教養を高める教育	25.4%
4位	就職先開拓・就職率向上の取組み	19.4%
5位	プレゼン・自己表現能力を高める教育	19.4%

3. 本学の社会評価イメージ

1位	教育研究を通じた社会貢献	49.3%
1位	卒業生の社会的活躍	49.3%
3位	環境への取組みによる社会貢献	20.9%
4位	社会的な高い評価	17.9%
4位	活発な国際交流事業	17.9%

4. 再び学ぶ機会の希望

再学習希望分野 (%)



最も高いニーズ：特定の技術的・専門的知識や資格取得 (44.8%)

今後の教育機会提供：・卒業生向けリカレント教育プログラム・専門スキルアップのための短期講座・オンラインでの学習機会提供

学びの多様性：職業に関連しない広い教養を求める声も16.4%あり

まとめ・今後の課題

1. 調査結果の総括

基本情報・キャリア状況

回答者は67名（回収率7.3%）。回答者の83.6%が正社員・正規職員として就業
進路満足度は「希望通り」と「おおむね希望通り」を合わせて89.6%と高水準
専門知識活用率は76.1%であり、多くの卒業生が大学で学んだ専門知識を活用

求められる能力と大学教育への評価

職場で最も求められる能力：「表現力・コミュニケーション能力」「社会のルール・マナー理解」「主体的に学ぶ力」

他機関卒業生と比較して不足を感じる点：「つながり」（52.2%）、「チャレンジ精神」（28.4%）

今後大学が力を入れるべき点：「専門分野の教育」（35.8%）、「コミュニケーション能力向上」（29.9%）

2. 卒業生からの要望と今後強化すべき取り組み

1 専門教育と社会人基礎力の両立

：専門分野の教育を強化しつつ、表現力・コミュニケーション能力、社会人マナーなど社会で求められる能力育成を強化

2 人的ネットワーク構築支援

：他学卒業生と比較して「つながり」の不足が最多指摘。卒業後も継続的な交流機会の創出、OB・OG交流会やメンター制度の拡充

3 チャレンジ精神・創造性の涵養

：PBL（課題解決型学習）の強化、インターンシップ拡充、起業家育成プログラムなど、学生の主体的挑戦機会の増加

4 リカレント教育の充実

：卒業生の44.8%が「資格など修得のための専門的知識を学ぶ機会」を希望。社会人向け学び直しプログラム、オンライン講座の開発

3. 今後の活用方針

本調査結果を教育改善・カリキュラム改革の基礎資料として活用

学科別の詳細分析を実施し、学科ごとの教育改善に反映

「専門教育」と「社会人基礎力育成」を両立させる教育プログラムの開発

卒業生ネットワーク強化と在学生・卒業生交流の促進

今後の調査では回収率向上のため、オンライン回答方式の導入も検討

※本報告書は2025年度に実施した卒業生アンケートに基づく調査結果であり、継続的な追跡調査により教育効果の検証を進めていく予定である。

第3部

本学卒業生アンケートの比較分析：

他大学調査との比較による特徴・強み・課題の検討

一卒業生調査設計・回答傾向の比較分析レポート一

本レポートは、兵庫大学卒業生アンケートと他大学の一般的な卒業生調査（大学IRコンソーシアム・全国大学生協等）を比較し、設問設計や回答傾向、特徴・強み・今後の改善ポイントをまとめた。調査結果を分析することで、本学の教育改善とカリキュラム改革のための基礎資料として活用することを目的としている。

設問設計の特徴

独自性・網羅性・質問の粒度などの観点から

本学卒業生アンケートの設問設計

- ✓ 15項目の能力評価
を4段階尺度（1:求められない～4:とても求められる）で詳細に測定し、社会人に必要な能力の重要度を可視化
- ✓ 社会人基礎力や職場適応力
を重視した設計（コミュニケーション力、社会ルール・マナー、主体的学習力など実践的能力に重点）
- ✓ 就職先決定要因のランキング分析
により、卒業生の進路選択プロセスを理解し、キャリア支援の改善に活用可能
- ✓ 卒業後の再学習ニーズ
を詳細調査し、リカレント教育や生涯学習プログラムの開発に活用可能な独自の項目設計
- ✓ 卒業年次・学科別クロス集計
により、学科特性や時系列変化を捉える細やかな分析が可能

調査機関	能力評価項目数	特徴的な調査領域
兵庫大学	15項目	社会人基礎力、職場適応力、再学習ニーズ
大学IRコンソーシアム	20項目	国際性、異文化理解、グローバル問題対応力
全国大学生協	多様な活動評価	課外活動、ボランティア活動、SDGs関連活動
ベネッセ等民間調査	就職力・満足度重視	進路選択プロセス、キャリア満足度の経年変化

他大学調査との比較における特徴

- 💡 他大学（大学IRコンソ等）と比較し、職場で実際に求められる能力により焦点をあてた実践的な設問設計
- 💡 大学IRコンソーシアムの調査では国際性・多様性・グローバル問題理解など、より広範な能力評価が特徴
- 💡 全国大学生協調査と比較すると、本学は職場適応に直結する能力をより詳細に測定している一方、SDGsなど社会的関心事項の把握は限定的

設問設計の優位点と不足点

兵庫大学卒業生アンケートの特徴分析

優位点

- + 社会人基礎力・職場での実践力
にフォーカスした評価設問が充実。特にコミュニケーション能力、社会ルール・マナー理解、主体的学習力など、実務現場で求められるスキルを詳細に把握できる
- + 多角的な調査視点
(進路満足度／専門知識活用度／再学習ニーズ／社会評価など)により、卒業生のキャリアと大学教育の関係性を立体的に分析可能
- + 就職先決定要因の優先順位分析
により、学生の進路選択プロセスを理解し、キャリア支援・就職指導の改善に直結するデータが取得可能
- + 他機関卒業生との比較による自己評価
を促す設問により、本学教育の相対的な強み・弱みを卒業生視点で評価可能
- + 卒業後の再教育ニーズ
を詳細に把握し、リカレント教育プログラム開発の基礎データとして活用可能

不足点

- 国際性・多様性
に関する評価指標が限定的。異文化理解力やグローバル社会への適応力など、大学IRコンソーシアム等が重視する国際的視点の測定が相対的に少ない
- 大学生生活全般の評価
が限定的。他大学調査では大学生生活の満足度や充実度を多面的に評価しているのに対し、本学調査では進路面に評価が集中している
- SDGsやボランティア活動
などの社会的関心事項に関する調査項目がなく、社会貢献意識や持続可能性への意識形成を測定できていない
- 教育内容・手法の具体的評価
(アクティブラーニング、PBL、オンライン教育など)に関する項目が少なく、教育方法改善への直接的フィードバックが限られる

評価観点	本学調査の特徴	他大学調査の一般的特徴
能力評価の焦点	社会人基礎力・職場適応力	包括的能力・国際性・多様性
調査の多角性	進路満足・再教育に重点	大学生生活全般・教育手法評価
社会的視点	職場での実用性重視	SDGs・社会貢献・ボランティア
経年変化の把握	卒業2年目と5年目の比較	3年目・5年目・10年目など多時点

回答結果の傾向

高い項目・低い項目の特徴から見る卒業生の職場で求められる能力

89.6%

進路満足度

「希望通り」「おおむね希望通り」の合計

76.1%

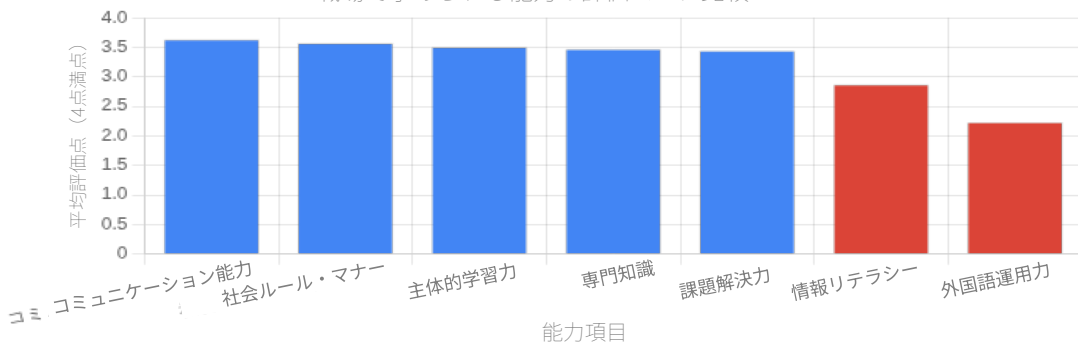
専門知識活用率

職場での専門知識・スキル活用度

高評価項目の特徴

- ↑ 表現力・コミュニケーション能力
：平均3.64点（4点満点）と最高評価。「とても求められる」が70%を超え、全体の95%以上が「求められる」と回答
- ↑ 社会ルール・マナー理解
：平均3.58点と2位の高評価。社会人としての基本的素養が強く求められていることを示す
- ↑ 自ら考え主体的に学ぶ力
：平均3.51点と上位。継続的な学習態度や問題解決姿勢の重要性が示されている
- i 上位7項目はすべて 平均3.4点以上
で、「とても/ある程度求められる」の合計が90%を超え、対人力・社会人力が重視されている

職場で求められる能力の評価スコア比較



低評価項目の特徴

- ↓ 特定の外国語を用いて意思疎通できる力
：平均2.24点と最低評価。「求められない/あまり求められない」が約60%を占め、国際業務に直接関わらない職種が多いことを示唆
- ↓ 情報リテラシー
も相対的に低く、「ある程度求められる」が58.2%。基礎スキルとして期待されるが、専門的ITスキルの需要は限定的
- i 学科別・年次別分析でも、社会人基礎力の高評価 と 国際性関連項目の低評価の傾向は一貫している

学科別・キャリア段階別の特徴

- 看護・保育系学科では 専門知識活用率が特に高く（80%超）、進路満足度も高い傾向
- 卒業2年目より 5年目の方が専門知識活用率がやや向上する傾向があり、キャリア発達による専門性活用の増加が示唆される

他大学と比べた本学の強み・弱み

卒業生アンケート調査の比較から見えた特徴

+ 本学の強み

- ✓ 職場適応に直結する社会人基礎力への特化（コミュニケーション力・社会ルール・マナー理解・主体的学習力の項目が充実）
- ✓ 高い進路満足度（89.6%）と専門知識活用率（76.1%）を示す実務直結型指標の有効性
- ✓ 就職先決定要因の詳細分析により、学生の価値観と就職先のマッチングに活用可能な独自データを保有
- ✓ 再学習ニーズの具体的把握を通じた生涯学習プログラム開発への応用可能性
- ✓ 他大学卒業生との比較視点を取り入れた客観的評価体系

- 改善すべき点

- ! 国際性・異文化対応力の評価が限定的（大学IRコンソーシアムは異文化理解・外国語運用能力など多様な国際項目を設定）
- ! SDGs・社会的課題への関心など広域な教育効果測定が不足（全国大学生協等は社会的関心の変化も追跡）
- ! 教育満足度と生活満足度の分離測定が不十分（大学IRコンソーシアムでは詳細に分離して測定）
- ! 留学経験に関する詳細評価が不足（他大学は留学期間・国際交流の質までを測定）
- ! 回答率の低さ（7.3%）が課題（設問設計や回収方法の工夫による改善の余地）

他大学との調査特性比較

調査主体	特徴的な強み	対象人数・回収率	特徴的な設問領域
兵庫大学	社会人基礎力・職業適応力	919名／7.3%	職場能力・再学習ニーズ
大学IRコンソーシアム	国際性・多様性評価	2,000名以上／5～10%	教育・生活分離満足度
全国大学生協	活動体験・SDGs	数万名／10～15%	課外活動・社会参画
ベネッセ等民間調査	企業比較・経年データ	数千名／15～20%	年収満足度・成長実感

総合的評価と改善の方向性

設問改善・調査設計の観点から

本学卒業生アンケートの総合評価

- ★ 社会で求められる基礎力を的確に可視化する実務志向の調査設計が最大の強み。特にコミュニケーション力や社会人マナー等の評価が詳細。
- ★ 進路満足度89.6%・専門知識活用率76.1%と高水準で、実務直結型教育の成果を実証できている。
- ★ 就職決定要因分析により キャリア支援の効果検証と改善に有効なデータが取得できている。

改善の方向性（課題）

- ❗ 国際性・多様性・異文化対応力の測定が限定的。グローバル社会に対応する能力評価の充実が必要。
- ❗ 包括的教育効果の測定（SDGsへの意識、課外活動の教育的効果、教養教育の成果等）がやや不足。
- ❗ 学科横断比較や経年変化の分析をさらに強化し、エビデンスベースの教育改善に活用する余地がある。
- ❗ 回収率の向上（現状7.3%）が課題。オンライン回答の利便性向上や特典付与などの検討が必要。

設問改善への具体的提案

- ① 国際関連項目の拡充
：異文化理解力、国際的視野、外国語コミュニケーション実践度などの項目追加
- ② 社会課題・SDGs関連項目
：環境問題や社会的包摂など現代的課題への意識・行動の測定
- ③ 教養教育の成果測定
：幅広い教養が職業生活でどう活かされているかの具体的評価
- ④ 学修成果の可視化強化
：大学IRコンソーシアム等の標準項目との連携による比較可能性の向上
- ⑤ 調査方法の改善
：卒業生ネットワーク活用など回収率向上策の実施

総括

本学の卒業生アンケートは社会人基礎力の測定に優れた強みを持つ一方、今後はグローバル対応力や多様性理解、社会課題への意識など幅広い能力も併せて捉える設計・分析への進化が求められる。実務的価値を維持しつつ、国際社会で活躍できる人材育成の検証ツールとしての発展が期待される。